

# その食べ物、犬にあげちゃダメ？ NG食品に出会ったとき＊ どう考えたらいいか？

by:Photonoob.net



解説するワン！

# Index

この度は、当テキストをダウンロードいただきありがとうございます。製作者のNaokoこと諸橋直子です。

諸橋直子(もろはしなおこ) 犬のためのアロマテラピー手づくり石けん「ぐり石けん」を運営するOffice Guri代表。

北海道札幌市出身・在住。

元盲導犬パピーだった黒ラブ「ぐり」のキャリアチェンジ(適正判断により盲導犬にはならず、家庭犬として暮らすこと)をきっかけに、「ぐり」の体質改善を目指して手作り食を始める。

ペット食育協会初級インストラクター

AEAJ認定アロマテラピーインストラクター、ホリスティックケア・カウンセラー、ペットマッサージセラピスト、愛玩動物飼養管理士2級

- BLOG みんなのぐり、とその姉さん <http://officeguri0608.blog45.fc2.com/>
- メールマガジン「ぐり通信」 <http://doglife.boy.jp/mail/>
- ぐり石けん <http://officeguri.cart.fc2.com/>

\*このテキストは無料でお配りしている性質上、個別のご質問などへの返信はご容赦いただいております。

ご質問をお送りいただいた場合もお返事は差し上げませんのでご了承くださいませ。

\*記載内容のご利用にあたっては、飼い主さんの自己責任のもとご利用ください(詳しくは下記【免責事項】をご参照ください)。

## 【推奨環境】

このレポート上に書かれているURLはクリックできます。できない場合は最新のAdobeReaderをダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

## 【著作権について】

このテキストは著作権法で保護されており、著作権は作成者に属します。つきましては、下記の点にご注意戴きご利用下さい。

### ●著作権者の許可なく、

このテキストの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。このテキストの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。このテキストは著作権者の許可なく全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

●著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。このテキストに書かれた情報は、作成時点での作成者の見解等です。作成者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

## 【免責事項】

このテキストの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報がありましても、作成者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このテキストを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、作成者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

## Part.1

# 犬にNG食品？

## その理由を知ってますか？

犬にあげてはいけないとされる食品はいろいろありますが、その理由まできちんと把握していますか？  
たくさんの犬のNG食品情報の中には正しいものもあれば、出典がわからないものもあります。  
そうした情報に振り回されることなく、「**自分自身の判断基準**」を身につけるためにこのテキストをご活用ください\*

**犬**にNGな食材については、  
手づくり食の書籍などを参考にすることで  
ある程度、理解することができます。

しかしながら・・・。

**「本に載っている以外の食材に出会い  
与えていいのかNGなのか、  
その判断基準が分からず  
悩んでしまう・・・」**

**という飼い主さんも多いのです。**

このテキストは、そうした場合  
どのように考え、  
最終的にどう判断するか？という  
ヒントをお伝えするものです。

**4つの食材**を例に解説しているので  
ぜひ参考にされてください。

# 1

## 【キャベツを与えすぎると、 犬の甲状腺が腫れる？】

何故こういうことが言われるかという理由については  
はじめに「ヨウ素」という物質についてお話しさせていただきます。

「ヨウ素」は甲状腺という場所で作られる  
甲状腺ホルモンの構成成分として  
重要な役割を担っています。

この「ヨウ素」が不足すると  
脳から「甲状腺刺激ホルモン」という物質の分泌が増加し、  
甲状腺の発達を促進することで、ヨウ素不足を補おうとします。

ここまでは、体の自然な働きといえます。

しかしながらこの状態が長く続くと  
甲状腺が腫れてしまい、『甲状腺腫』を発症します。

まとめると、「ヨウ素」不足を補うために、  
脳が甲状腺を刺激するホルモンを出し甲状腺に働くよう促す。

⇒その状態が長く続くと腫れてしまう

という仕組みです。

そして、キャベツの中には「**ヨウ素の吸収をブロックする物質**」  
が含まれています。

そのため、キャベツを食べる

⇒体内で食物からのヨウ素吸収がブロックされる

⇒結果、ヨウ素不足に陥る

⇒甲状腺が腫れる!!

という図式で説明されることが多いようです。

## しかしながら...

キャベツに含まれるという、  
その「ヨウ素」を阻害する物質も  
実はそんなに大量に入っているわけではありません。

量的には  
キャベツ10玉一気に食べたら、影響が出るかもしれない・・・  
というレベルと言われています。

そのため、

キャベツを食べた＝甲状腺の腫れ！！

と、**摂取量などの条件をまったく考慮せず  
すぐに結びつけてしまうのは  
少し極端な考え方と言えるのではないのでしょうか。**

ちなみの我が家の黒ラブ・ぐりは  
キャベツをおやつ代わりに日常的に食べて4歳になりますが  
健康です。

家庭菜園でキャベツを作っているので  
キャベツの時期が来るともうかなりの量を食べていますが  
毎年**健康診断で異常値がでたことは、これまで1度もありません。**

さらに、胃の調子が悪い時に獣医師にかかったときなどは

「薬出すまでもない、という程度ですので  
代わりにキャベツ与えてください」

と獣医師に指示されたため、  
キャベツを意識的に与えていた時期もありました。

獣医師も食べていいというのだから、という理由で  
その後、我が家ではキャベツは「おやつ」として  
かなり重宝しています。

特に芯の部分は、硬くて歯ごたえがあるので  
コリッコリと、とても美味しそうに食べます。

結論としては、健康な状態の犬が  
おやつ代わりにほりキャベツを食べて  
それが原因で**甲状腺の病気になることはない**と  
考えていただいて大丈夫です。

そして・・・。

いろいろな食材に言えること  
ですが、特定の食べ物だけ  
が原因で病気になるというこ  
とはまずありません。

この点をご理解いただけましたか？

\*ただし、病気になった後で、その症状を加速させてしまうので  
避けた方がいいものはあります。その場合は獣医師の指示に  
したがってください。

さらに、日本は海に囲まれているので  
海の食材を摂る機会がとても多いです。

「ヨウ素」は海の食材に多く含まれているので  
(こんぶやイワシ、サバなどの魚)  
手づくり食で魚メニューも時々あれば  
まず「ヨウ素不足」に陥る心配はありません。

最後にまとめると  
キャベツそのものが甲状腺腫の  
直接の原因になる可能性は  
ほとんど無いと言える、ということです。

\*ヨウ素の過剰摂取でも、甲状腺腫は起こります。  
バランスよく、適量を!ということですね。

食べ物そのものが、  
病気の原因になることは  
まずありません。

NG食材の情報に出会った場合は

- どのくらいの量を食べると、NGなのか？
- NGと言われる理由は何なのか？

についても、考えてみるのが大切です。

## 2

# 【犬に生卵の白身を 与えてはいけないの？】

生卵の白身がNGと言われる理由は  
そこに含まれる「アビジン」という物質です。

この「アビジン」が、皮膚の健康を守るビタミンである  
「ビオチン」が体に吸収されるのを阻害してしまう、と  
言われています。

ちなみに「ビオチン」は皮膚の健康維持に  
大いに威力を発揮するビタミンで、  
アトピーやアレルギーの抑制効果でも注目されています。

そして「ビオチン」は、レバーや卵などに多く含まれています。  
卵では、卵黄部分に含まれています。

つまり、生卵の白身に「アビジン」が含まれていても  
卵黄には「ビオチン」がたっぷり含まれているため  
全卵を食べる分には、「ビオチン欠乏」になる心配はありません。

さらに、「アビジン」はたんぱく質なので  
熱によってその力を失います。  
そのため、加熱してしまえば問題ありません。

つまり、1度くらい生卵の白  
身を食べたからと言って、即  
「ビオチン欠乏になる！」  
ということはありませんし  
生卵の白身だけを大量に常  
食しないかぎり、大きな問題  
は起こらないと考えて良いで  
しょう。

# 3

## 【犬に牛乳は 良くないっていうのは本当？】

人間でも牛乳を飲むとお腹が痛くなる、という場合がありますが一般的に牛乳を飲んで下痢などの症状が出る場合は

### 『乳糖不耐症』

が原因となる場合が多いです。  
これは犬も人間も共通で、牛乳に含まれる「乳糖」を消化するのに必要な消化酵素の不足によって起こります。

**\*酵素の不足によって起こるものなので  
アレルギーとは別物です。**

犬も個体によって体質は様々ですから  
乳糖の消化が得意な子、そうでない子がいます。

ちなみに、犬の母乳にも「乳糖」は含まれています。

一般に、動物は(犬も人間も)母乳の中に含まれる  
「乳糖」を分解できるだけの乳糖分解酵素を  
乳児のときには分泌することができます。

それが大人になると、乳糖を含む食品を口にする機会に差が出てくるため、個体差が出てくる、ということも言われています。

ちなみに人用の牛乳でもお腹がごろごろしない、をキャッチコピーにした牛乳が売られています。

例えば、「メグミルク おなかにやさしく」という牛乳は  
乳糖を80%分解した牛乳です。

犬用として売られている牛乳も、この乳糖を分解したものが一般的です。

そのため、『乳糖不耐症』である犬に対しては与えない、  
初めてあげる場合は水で薄めた牛乳を与える、などの  
という選択肢があります。

ちなみに我が家の犬は、牛乳の水割りを毎朝たっぷり飲んでいますが。  
カルシウムも豊富ですし、カロリーオーバーにならない範囲で  
与える分には大きな問題は起こりません。



●牛乳を飲んでいる動画はこちらからどうぞ。  
<http://s-ter.net/officeguri/c/00991.html>

## 4

# 【犬にブドウを与えると腎臓障害を 起こすというのは本当？】

『ブドウとレーズンには未知の毒物が含まれており、  
腎毒性があるというのは本当ですか？』

獣医師もよく聞かれる質問だそうです。

●そう言われる背景を整理します。

- 1.ブドウやレーズンを食べて中毒症状をおこしたという報告が存在する。
- 2.その原因物質および発症機序はまだ明らかになっていない。
- 3.ブドウやレーズンには、表面の残留農薬の危険性がある。

●その上で、事実を整理します。

- 4.ブドウを食べても全ての犬が中毒症状を呈するわけではない。
- 5.ブドウそのものではなく、  
残留農薬による症状の可能性も考えられる。

ここでもうひとつ、挙げておきたいポイントは  
ブドウによってダメージを受ける臓器が「腎臓」である、という点です。  
腎臓は肝臓や胃腸の粘膜と違って、一度細胞が壊れてしまうと再生しない(と考えられている)臓器です。

腎機能障害をおこしてしまったときの動物病院での治療は、基本的には「腎臓を治す治療」ではなく「これ以上腎臓を壊さないための治療」になります。

## こうした背景を踏まえた上で どちらかと言えば嗜好品に当 たる「ブドウ」を敢えて与える 必要があるのか？

という視点で考えてみることをお勧めします。

今までブドウを食べて来て何の問題もなく、とても愛犬が好きだから、おやつやご褒美として与えるという飼い主さんもいらっしゃるでしょう。そうした場合は、あげ過ぎには十分注意をしつつ、与える、という選択肢も考えられます。

また、そうした場合は農薬の危険を考えると皮を剥いて与える、という選択肢もありますね。

また、危険だという報告もある食材なので積極的に与えることはしない、という選択も可能です。

大切なのは、犬に与えるといけないとされる食材の背景を知り白黒をつけるのではなく、そうした情報をもとに

## 「敢えて与える 必要があるだろうか？」

という視点で冷静に考えてみることです。

以上、セミナーなどでご質問を受けることの多い、犬のNG食材についての4つの疑問についての回答です。

今後、こうしたNG食材の情報に出会い、迷われることがありましたら、

## 「迷うような食材を 敢えて与える必要が あるだろうか？」

という視点で考えてみてください。

選択の基準を自分自身で持つことで「**不安**」を無くすことができます。